

# 佐久市学校施設の長寿命化計画 概要版(1/2)

## 1 長寿命化計画の背景と既存施設の整理

### (1) 背景 (P1)

佐久市の学校施設は、公共建築物延面積の3分の1以上を占めています。そのうちの3分の2近くは小学校になりますが、これらの多くは第二次ベビーブームに伴う児童数の増加に併せて建設されており、今後の修繕や建替えに要する多額の費用は、その時期が重なることで、将来的な財政の大きな負担となることが予想されます。

今後は、中長期における計画的な施設改修や維持管理のほか、施設の有効活用を含めた学校施設の適切な管理が重要な課題となっています。

### (2) 目的 (P2)

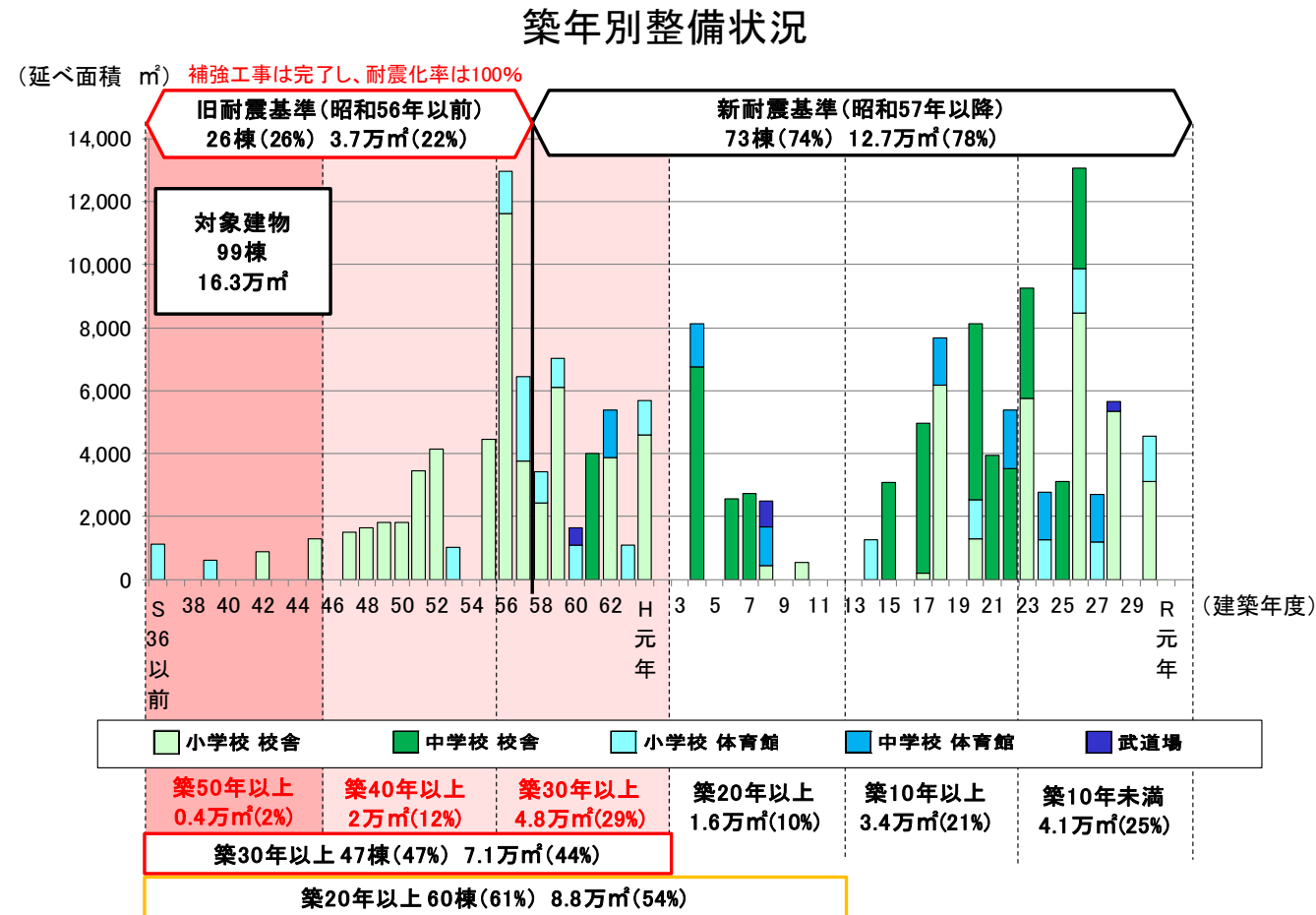
「佐久市学校施設の長寿命化計画」は、これらの背景を踏まえて学校施設を総合的観点で捉え、長寿命化できるものは長寿命化し、適切に改修・改築をするとともに、教育環境の質的改善も考慮しながら、中長期的な維持管理に要するコストの縮減と平準化を図ることを目的として策定するものです。

### (3) 計画期間 (P2)

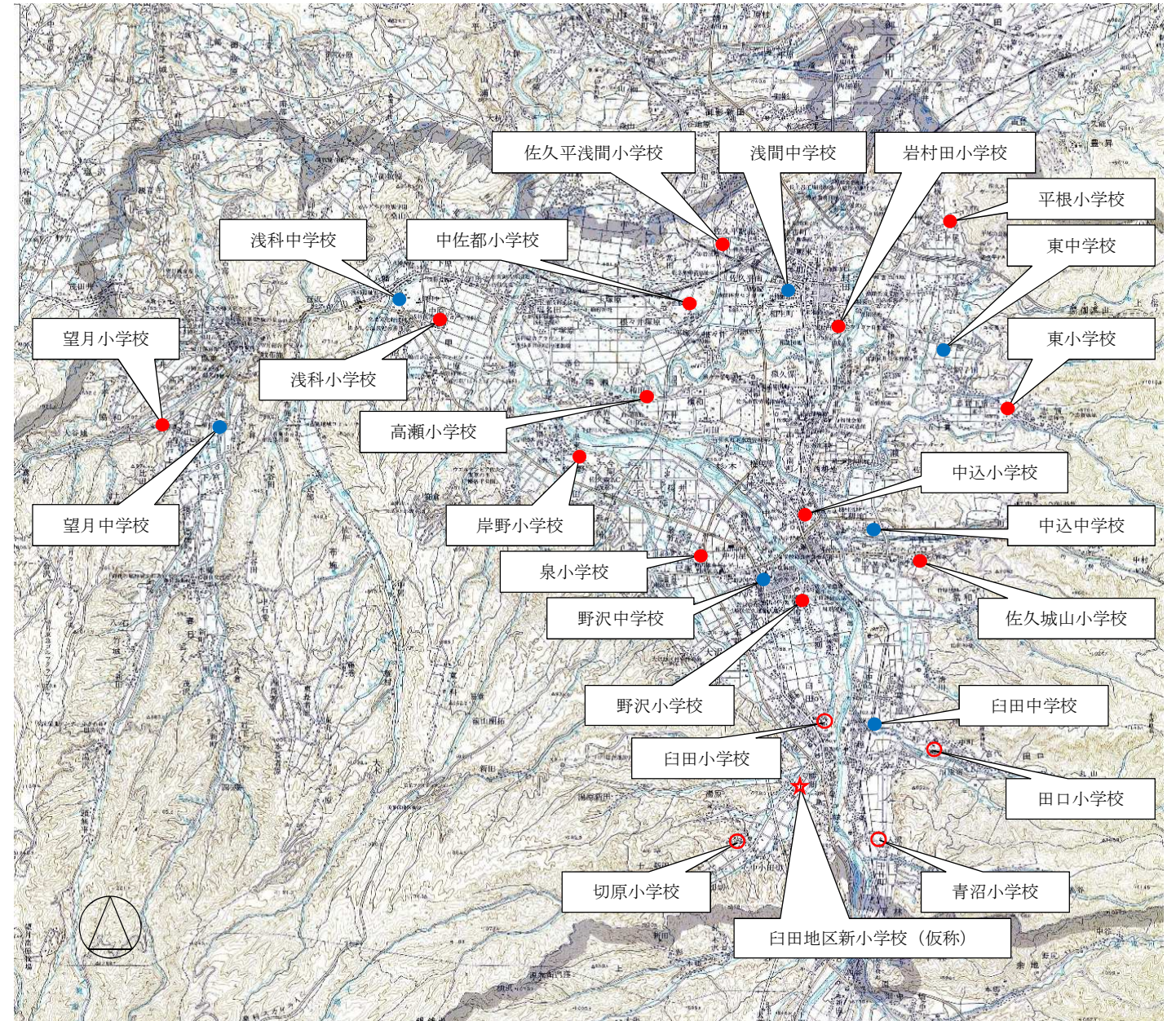
令和3(2021)年度から令和42(2060)年度までの40年間とします。

### (4) 対象施設 (P8)

佐久市が保有する学校施設(小学校17校、中学校7校)のうち、200㎡以上の建物を対象施設とし、その築年別の整備状況は下記グラフに示すとおりです。



学校施設配置図 (P6)



- 小学校
- 中学校
- 統合予定小学校
- ★ 令和5年度開校予定 新小学校



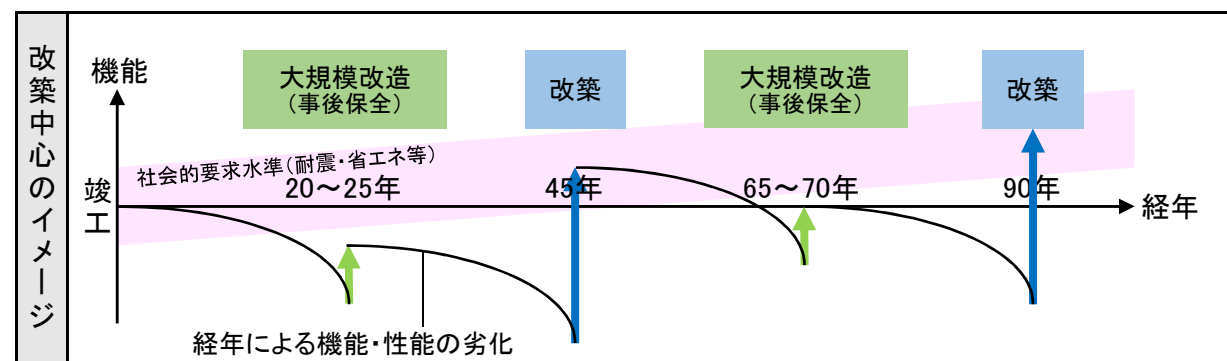
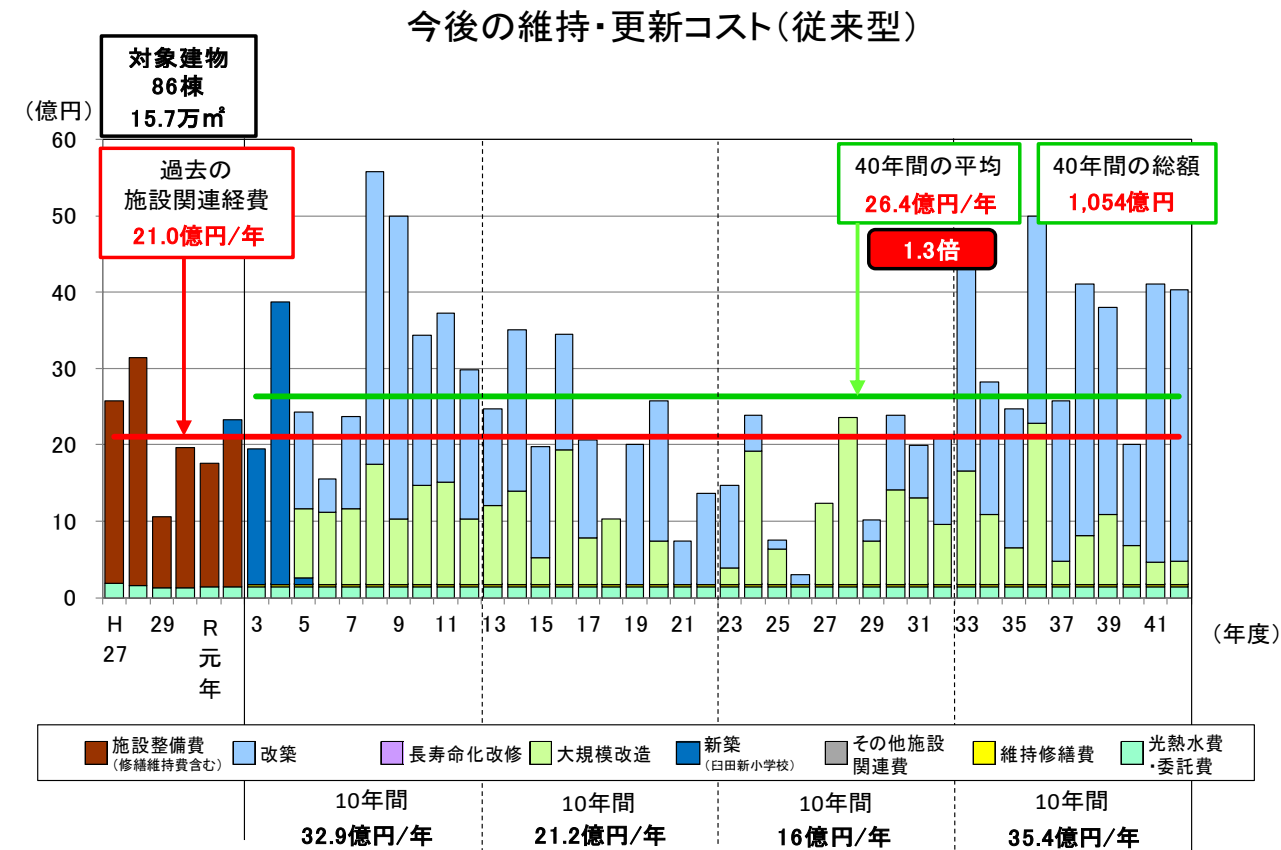
## 佐久市学校施設の長寿命化計画 概要版(2/2)

### 2 長寿命化の整備方法への転換

#### (1) 従来の整備方法 (P9)

築45年程度で改築(建替え)をしてきた従来の整備方法を今後も継続していった場合、**今後40年間に必要な費用は1,054億円(26.4億円/年)**となり、これは、**過去5年間の施設整備費の平均の1.3倍**となります。

厳しい財政状況下において従来のような改築中心の整備を継続することは困難であり、対応策を検討する必要があります。

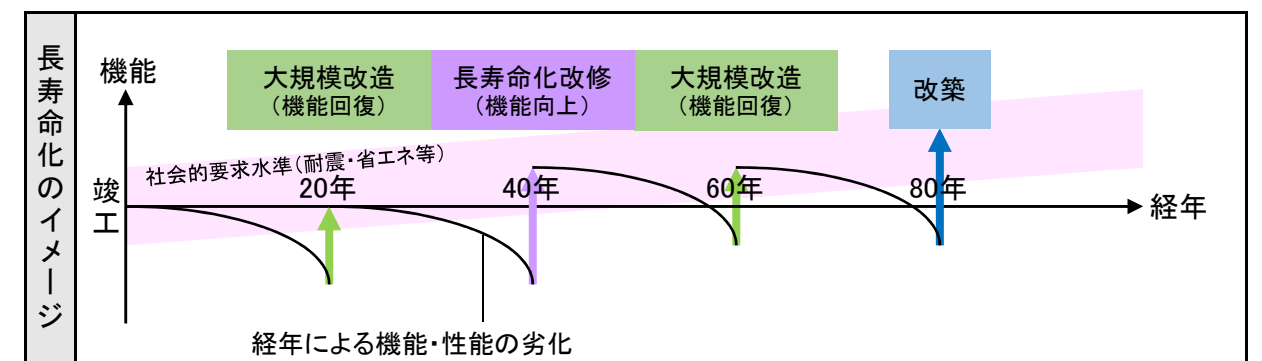
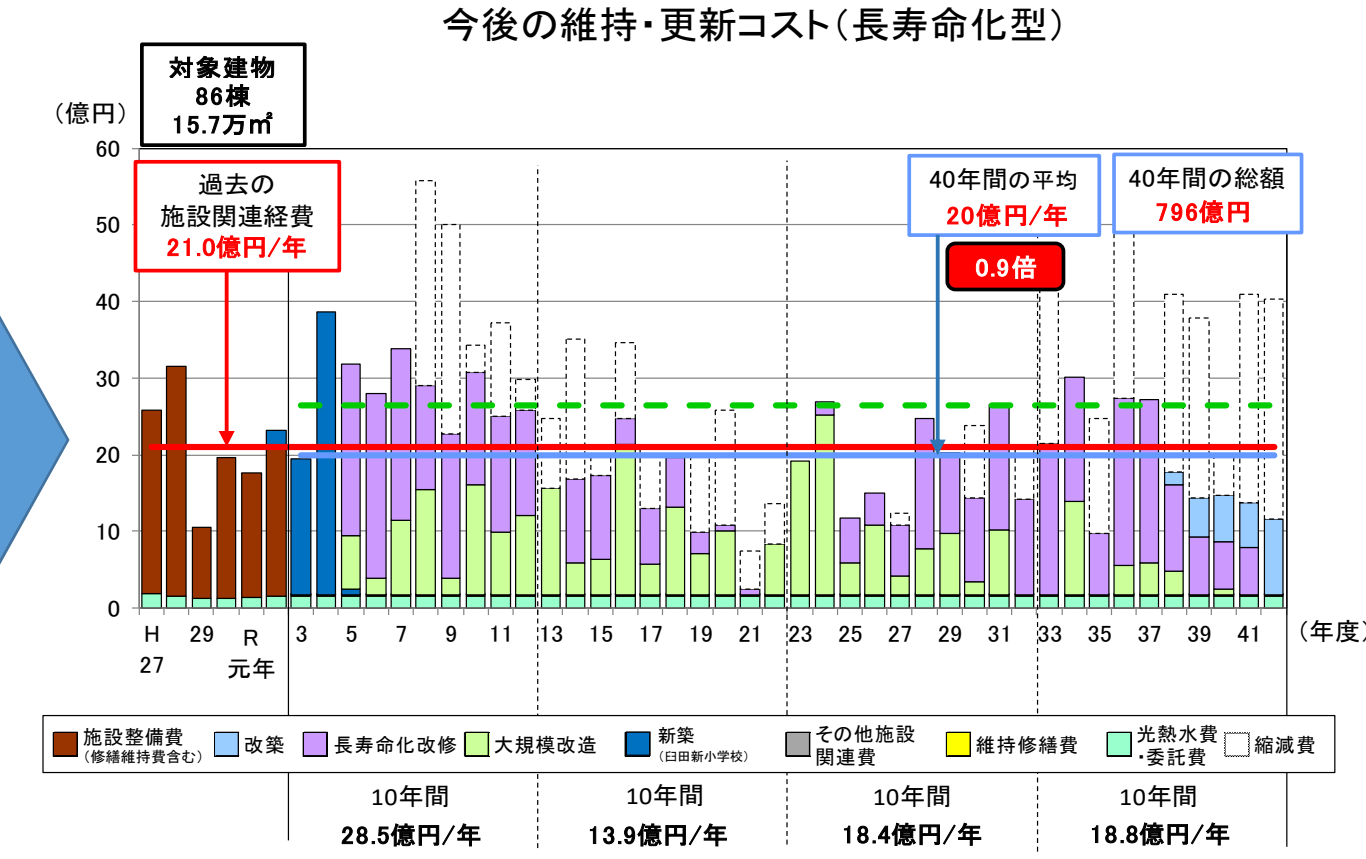


#### 3 学校施設の長寿命化計画の基本方針 (P14)

- (1) 建物の健全度が低い施設の長寿命化改修を進めるとともに、ライフサイクルコストの削減を目指し、計画的な予防保全に努めます。また、誰もが安心して学校施設が利用できるように、バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化を推進します。
- (2) 標準的な学校規模をめざし児童生徒数の動向に注視し、統廃合に当たっては、原則長寿命化した施設の活用を図っていきます。また、児童生徒の増加傾向にある区域の学校においては、増築または改修による教室の確保を図ります。

#### (2) 長寿命化型の整備方法 (P12)

長寿命化により80年間建物を使用した場合、**今後40年間のコストは796億円(20億円/年)**となり、これは**従来型の改築中心の場合の1,054億円(26.4億円/年)より、総額258億円(6.5億円/年)、約24%の縮減**となります。更に、**過去5年間の施設関連経費の9割程度**に抑えることができ、長寿命化型に切り替えることの効果が高いことが分かります。また、従来型に比べてグラフの起伏の幅が小さく、施設関連経費の平準化が実現できています。



#### 4 長寿命化の実施に向けて (P18)

建築後20年を目安に大規模改造、建築後40年を目安に長寿命化改修を行うことを基本的な考えとし、事業の実施に当たっては実施計画において実施年度や事業費を精査していきます。